

主要経済指標等 (2012年)

●人口	1.99億人
●GNI 総額	22,135.46億ドル
●GNI 一人あたり	11,640ドル
●経済成長率	1.0%
●失業率	6.9%
●対外債務残高	4,404.78億ドル
●援助受取総額 (支出純額)	12.88億ドル
●DAC分類	高中所得国
●世界銀行分類	iv/高中所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対ブラジル援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2009年度	206.34	3.34	26.69(19.93)
2010年度	191.69	2.94	24.96(19.88)
2011年度	499.96	1.91	30.52(23.19)
2012年度	-	1.15	23.67(17.34)
2013年度	-	0.93	20.16
累計	4,163.59	36.87	1,171.96(1,104.33)

*脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	17.2%(1990)	6.1%(2009)
●目標2: 初等教育における純就学率	-	-
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	0.94人(1999)	0.94人(2005)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	61.7人(1990)	14.4人(2012)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	120人(1990)	56人(2010)
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	-	0.02%(2011)
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	88.5%(1990)	97.2%(2011)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

ブラジルに対する我が国ODA概要

1. 概要

ブラジルに対する我が国の経済協力は、1959年の技術協力専門家派遣に始まり、同国は累計ベースで中南米における我が国ODAの主要な被供与国の一つである。人材育成や経済社会インフラの整備等を通じ、我が国はブラジルの開発に大きく貢献している。

2. 意義

ブラジルは、世界第5位の面積・人口を抱え、世界第7位(2013年、IMF)の経済規模を誇り、昨今の著しい経済発展にともない地域大国を超えたグローバル・プレーヤーとしての国際的地位を高めている。豊富な鉄鉱石、石油等の地下資源、世界最大の食糧増産余力等にもかんがみ、同国に対する支援は我が国との経済関係を一層深化させる観点からも意義深い。なお、両国関係において、ブラジルに在住する約160万人の日系人の存在は重要な役割を果たしている。

3. 基本方針

我が国との経済関係をさらに発展・深化させていくために、ブラジル政府が掲げる「成長加速プログラム」を踏まえ、急速な都市化がもたらす弊害を緩和し、天然・食料資源の安定的供給に資する分野への支援を行っていくことを基本方針とする。また、三角協力を通じた互恵的協力関係を構築していく。

4. 重点分野

- (1) 都市問題と環境・防災対策: 都市部における環境・衛生の改善、交通渋滞の緩和といった都市環境の悪化に対し、我が国の先進的な技術を活用した環境負荷の少ない環境配慮型都市構築の分野で支援を行っていく。また、防災リスク管理における支援も行っていく。
- (2) 三角協力支援: 我が国は2000年にブラジルとの間で開発協力のパートナーシップ・プログラム(JBPP: Japan-Brazil Partnership Programme)を締結し、以来、この枠組みを通して、日・ブラジル双方の開発方針に合致する分野において、中南米やポルトガル語圏アフリカ諸国に対し三角協力を実施している。引き続き、両国・被援助国間の緊密な連携の下に効果的な支援を実施していく。

※注) 1. 年度の区分および金額は原則、円借款および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2009年~2012年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2013年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。
()内はJICAが実施している技術協力の実績および累計となっている。

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細（表-1の詳細）

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2011年度	499.96 億円 ・サンパウロ州無収水対策計画 (335.84) ・ベレン都市圏幹線バスシステム計画 (164.12)	1.91 億円 ・草の根文化無償(1件) (0.07) ・草の根・人間の安全保障無償(25件) (1.84)	
2012年度	なし	1.15 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(16件) (1.15)	・パラナ州上下水道システム運営・維持 管理能力強化プロジェクト [12.09～15.08] ・クリチバ市における土地区画整理事業 実施能力強化プロジェクト [13.02～16.01]
2013年度	なし	0.93 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(13件) (0.93)	・統合自然災害リスク管理国家戦略強化 プロジェクト [13.07～17.07]
2013年度 までの累計	4,163.59 億円	36.87 億円	1,171.96 億円(1,104.33 億円) 研修員受入 11,517 人 専門家派遣 2,950 人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2011年度以降に開始され2013年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [] 内は、協力期間。

ブラジル

表-3 我が国の対ブラジル援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-119.07	2.17 (0.47)	23.69	-93.21
2010年	-101.54	6.25	32.64	-62.65
2011年	119.90	4.09	33.21	157.20
2012年	-292.19	2.93 (0.44)	35.62	-253.64
2013年	-42.76	1.40	27.00	-14.35
累計	518.36	41.30 (0.91)	1,212.90	1,772.51

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力を計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。()内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。
 2. 有償資金協力および無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、ブラジル側の返済金額を差し引いた金額)。
 3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
 4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁および地方自治体による技術協力を含む。

表-4 諸外国の対ブラジル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2008年	日本 181.24	ドイツ 139.60	フランス 54.59	スペイン 36.84	米国 27.86	181.24	512.19
2009年	ドイツ 204.14	日本 95.04	スペイン 64.88	フランス 52.93	ノルウェー 29.47	95.04	530.26
2010年	ドイツ 254.41	フランス 51.94	英国 46.03	日本 38.91	ノルウェー 36.52	38.91	534.80
2011年	日本 278.81	ドイツ 222.77	ノルウェー 72.55	フランス 64.59	英国 52.80	278.81	794.27
2012年	フランス 863.51	ノルウェー 214.64	ドイツ 152.07	英国 75.70	日本 44.86	44.86	1,428.04

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対ブラジル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2008年	EU Institutions 48.55	GEF 31.99	IDB Sp. Fund 16.42	GFATM 6.78	UNHCR 2.11	6.73	112.58
2009年	EU Institutions 18.76	IDB Sp. Fund 15.71	GFATM 10.92	GEF 10.81	UNFPA 1.64	4.93	62.77
2010年	GEF 28.49	EU Institutions 21.30	IDB Sp. Fund 14.82	GFATM 8.52	UNFPA 1.55	4.85	79.53
2011年	EU Institutions 154.36	IDB Sp. Fund 16.17	GEF 12.22	GFATM 10.91	UNHCR 2.94	4.99	201.59
2012年	EU Institutions 188.80	GEF 17.94	IDB Sp. Fund 14.24	UNFPA 2.43	IAEA 1.06	2.86	227.33

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 実施済および実施中の開発計画調査型技術協力案件 (開発調査案件を含む) (開始年度が2009年度以降のもの)

案件名	協力期間
ITS マスタープラン調査プロジェクト	12. 3~13. 6

出典) JICA

表-7 2013年度実施協力準備調査案件

案件名	協力期間
クリチバ都市圏スマートグリッド導入事業準備調査	13. 1~13. 7

出典) JICA

表-8 2013年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案	件	名
マナカプル川河岸住民生活向上のための船舶整備計画		
カタンドゥーヴァ養護学校マイクロバス整備計画		
サン・ルカス市立病院医療機材整備計画		
トメアス総合体育教育施設建設計画		
イタクワケセツバ障害者施設用電動式介護ベッド機材整備計画		
ノッサセニョーラダグローリア特殊児童学校改修増築計画		
サンタ・ジェンマ・ガルガニ特別支援学校校舎改修計画		
腹腔鏡下手術セット整備計画		
ポルトアレグレ困窮者支援協会本部改修計画		
サンパウロ障害者施設暖房及び食堂機材整備計画		
セイツゴ・ヒラタ市立病院医療機材整備計画		
高齢者送迎用マイクロバス整備計画		
リオブランコ市プレヴェントリオ地区保健診療所建設計画		

主なプロジェクト所在図 ブラジル

